

---

# 夢中

鎌学 文芸部

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢中

### 【Nコード】

N2273I

### 【作者名】

鎌学 文芸部

### 【あらすじ】

人の多い通り

ビルの前に男

彼は叫ぶ

俺は神だ、と

(前書き)

久しぶりの投稿です

こちらにも多く載せているのでぜひぞお立ち寄りください

http://kamaagakubunnguibu.jimdod.com/  
anotherpassage.jp

眼前の超、超高層ビルを仰いで、彼は叫ぶ。

「俺は神だ」

あまりにも高いそのビルの前を往来する、スーツで身を整えた人間たちの流れが、一斉に彼を注視する。衆人環視の中、彼は啞然としているままの顔で周囲を見渡すと再び狂ったように「俺は神だ」とわめき始めた。しかし、どうやら言葉が通じないらしい、彼には聞き取れない言語で周りと何かをつぶやくと、スーツの人間らは何事もなかったかのようにまた流れをつくる。

「俺は神だ」

なお喚き続ける彼を横目に、いつものように日常を闊歩している人間らは河の如く流れ、まるで岩に割ける水流のように彼を避ける。そして、ひとつの現象を形成するように、誰も彼に関与せず、強張らせた無表情のまま幾人もが通り過ぎていく。

「俺は、神だ」

叫んでいる彼も次第に疲れたのか、声は小さくなるばかり。しまいにその場に膝を屈し、頭を抱えてうつむいたまま動かなくなってしまう。

彼は心中で言葉を反芻させる。私は神だったはずだ。そう、森羅万象を思想夢想で弄繰り回せるという、最高位にあったはずだ。私が言うこと全てが真理であり、嘘の存在を許さじとした。指先ひとつで世界を反転させ、破滅させてきた。そうだったはずだ。

しかし、どうにもその力は今の彼には無く、人間らと同じ能力しか携えてはいないようである。足は二本しかなくて、腕も二本しかない。頭だって、小さいのがひとつ。

もしかすると。彼はあらぬ方向へ考えを馳せる。もしかすると、私は人間なのではないだろうか。夢の中なら誰だって、自分の意の赴くままに世界を歪ませることができる。夢だからだ。こうやっ

て現在人間程度の能力しか持ち合わせていないのは、それ故ではないだろうか。いや、違う。私はだって流れには乗っていないではないか。周りは私を避けて行く。ならば、そこいらの人間らとはやはり違うのではないか。そうすると、では、何が違うのだろうか。違うとは何なのか。やはり容姿は手触りの感覚ではどうしたって人間のようにあるし、おおよそ似ている、と言われるような相手は流れの中にごまんといるだろう。さほど美しくも、醜くもない、とりとめのない顔。おお、こんなに平淡なものが特異なわけがない。私はやはり人間なのだろう。人間なのだ。

徒労感も加え重くのしかかる体を、どうにか足で支えて立ちあがった。

仰ぎ見ると、超、超高層ビルに隠れて、空は見えない。流れに入ろうと一歩進む。

と、目が覚めた。体の感触が一度に脳に伝わって、体が布団にあることを知った。

やっと現実を把握した彼は、やはり神のようだった。

不快な寝汗を感じている。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2273i/>

---

夢中

2010年12月29日14時21分発行